

ワークシート③-2 UDの対象

下線にあてはまる語を書きましょう。

名前 _____ 解答 _____

肢体不自由の UD

肢体不自由は身体障がい者の 54% を占めている。

先入観 を排除して全く新しいデザインを考えることが UD に配慮したものを作ることにつながる。例えばボールペンは手で使用することのみを考えるが、それだけではなく口や足で使うことまで考えなければいけない。

足の障がいを持つ人に対する工夫として、スロープ で段差をなくすことやトイレのスペースを大きくとり、手すり を設置するなどがある。これらの工夫は健常者にとっても有効であり、すべての人が使いやすい ことを目指す UD の一つであるといえる。

視覚の UD

回復困難な視力低下などの資格に関する障がいを 視覚障がい という。全く物が見えないことを 全盲、矯正視力が 0.03 以下のことを 弱視 という。視覚障がい者は外出時に 盲導犬 などの 身体障がい者補助犬 を連れて歩くことが定められている。

視覚の UD として シャンプーのボトル にあるきざみが有名。もともとは視覚障がい者に対してリンスとの区別をつけられるようにするためのものであったが、健常者からも支持され、現在ではほとんどのボトルにきざみがある。

日本人の約 5% の人々は一般の人が感じていると違う色覚を持つ 色弱者 である。これら少数派の色弱者に対する UD として カラーユニバーサルデザイン という、色覚に関する UD がある。これは 色弱者 が認識しにくい色を極力使わないことや、見分けのつきやすい掲示をすることが主だ。

聴覚の UD

聴覚障がい者に対する配慮として、音声、点字、パネルなど 視覚、触覚 を利用した工夫がある。聴覚障がい者ではなくても、例えば駅では混雑時にアナウンスが聞き取りにくいことがある。その際は電光掲示板という 視覚的 な手段で情報を伝えることが可能だ。救急車もサイレンの音だけではなく赤いランプでも事態を知らせてくれる。聴覚に対しての UD は視覚、触覚を利用した手段で解決されている。しかし、耳も目も衰えた 高齢者 などには完全に対応できない。UD は 100%の人が確実に利用できる ことを保証するものではない。